特集

古都の香りただよう太宰府の夜

悠久の時を伝える古都・太宰府。
その豊かな森にたたずむ九州国立博物館は、
4月から週末の金曜・土曜日に夜間開館を始めました。
それにあわせて、太宰府天満宮の開門時間も延長。
さらに、楼門や参道の鳥居周辺がライトアップされ、
幻想的な美しさを演出します。
昼間とは違う、古都・太宰府の夜の魅力を発見してください。

夜の博物館たんけん隊

博物館の”守る“”運ぶ“を学ぶ

”展示する“

4月から、九州国立博物館は毎週金曜、土曜日に午後8時まで夜間開館を実施しています。展示物をゆっくりと鑑賞できる上に、多彩なナイトイベントで来場者を迎えます。

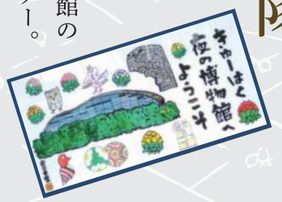
中でも、人気の高い催しが、バックヤードツアー「夜の博物館たんけん隊」です。普段は見れない博物館の”守る“”展示する“”運ぶ“をのぞくことができる夜間開館限定のイベントです。

まずは、博物館の”守る“。最初に目に飛び込んでくるのが、丸いタイムカプセルのような※文化財用燻蒸（くんじょう）装置。奈良・正倉院で実際に使われていたわが国第1号のもので、今は現役引退していますが、長い間、宝物を害虫から守ってきました。現在、九博では低酸素による酸欠や二酸化炭素によって害虫を駆除する装置を設けています。

※文化財の虫害対策のために開発された装置。タンク内を減圧し、ガスを充満させることによって殺虫する

次に向かうのは、博物館の”展示する“を学べるコーナー。展示物が魅力的に見えるように、ケースのガラスは二重構造で、特殊なフィルムが貼られています。美しく見せるためのこだわりはガラスだけではありません。ケースの下にライトを調節する装置があり、展示物により光の当てる角度を微妙に変えることで文化財をより美しく浮かび上がらせます。

最後は、博物館の”運ぶ“を体験。文化財を運ぶ巨大なエレベーターは、その見た目とは裏腹に揺れもなく、貴重な文化財を安全に運ぶことができます。博物館の仕事の一端を間近に見られる「夜の博物館たんけん隊」は、毎月第1土曜日の夜間開館の時だけ特別に開催しています。



6／かつて正倉院で使われていた文化財用燻蒸装置　7／展示ケースや大道具が並ぶバックヤードを見学　8／文化財専用エレベーター。幅3m、奥行5m、高さ3.8mの巨大なエレベーターで、揺れもなく昇降する　9／展示ケースの下には、調湿剤を入れるスペースがある　10／車の排気ガスなど外気を入れない巨大な二重シャッター　11／有事の際にも貴重な文化財への二次災害を防ぐ純水ベースの消火器。初期消火はこれで行うが、それを超えると、展示室に窒素を充満させて炎を消す

ナイトミュージアム体験

夜間ならではの魅力を満喫

他にも、普段は禁止されている展示室でのスケッチを解禁して、仏像を360度好きな角度から描ける「スケッチしナイト☆」を開催。また、月末の金曜日には「プレミアムフライデーライブ」を実施。5月の「二胡（にこ）の夕べ」では、幻想的なコンサートが催されました。

また、7月11日から9月3日まで、特別展「世界遺産ラスコー展」が開催されます。これは、2万年前のクロマニョン人たちが描いた、世界遺産のラスコー洞窟を展示室に再現するというもの。2万年の時を超え、タイムスリップしてきたクロマニョン人が現れ、クロマニョン語で話すといったイベントにきっと好奇心がかき立てられることでしょう。

週末の夕方、学校や仕事帰りに気軽に博物館へショートトリップしてみませんか。きらめく星空の下、夜ならではのミュージアム体験で、新しい九博の魅力に触れてみてください。

1／夜間の九博の外観。静謐（せいひつ）な森の中にたたずむ姿が美しい
2／ナイトミュージアム中のエントランス。夜ならではの明かりの風情が楽しめる
3／5月27日に催された第1回「スケッチしナイト☆」。スケッチ作品は再現文化財・大日如来坐像
4／5月26日に行われた「プレミアムフライデーライブ」での二胡の演奏。夜ならではの幻想的な雰囲気に魅了された
5／4月28日に行われた夜間開館のオープニングセレモニー。夜間開館スタートを祝う点灯式の様子

特集

古都の香りただよう太宰府の夜

夜間開館イベント
問い合わせ先

九州国立博物館
☎ハローダイヤル
050-5542-8600
ファクス
092-929-3276

ロマンチック

あじっぱの夜

昼間は、子どもたちの笑い声や珍しい楽器の音が絶えない、九博の体験型展示室「あじっぱ」。ここは日本と交流があったアジアやヨーロッパの楽器やおもちゃ、衣装、生活道具を五感で楽しむことができます。昼間、にぎやかな「あじっぱ」も、夜は異国情緒あふれる幻想空間へ。夜間開館に合わせて、展示時間も午後8時まで延長されました。「あじっぱ」で、ロマンチックな夜を過ごしてみませんか。

ひとあじ違う古都・太宰府の夜の魅力を体験しよう

荘厳な夜の拝殿 いつもとは違う時間が流れていきます

中国語、韓国語、英語など、さまざまな言葉が飛び交う昼間の太宰府天満宮。海外からのクルーズ船が博多港に到着するたびに数千人の外国人観光客が太宰府天満宮を訪れます。昼間はにぎわう境内も午後5時頃には落ち着きを取り戻します。そんな太宰府の夜の魅力をご紹介。

この春から、九博の夜間開館に合わせて、太宰府天満宮も午後8時半まで開門。九博と境内を結ぶエスカレーターの昇降口にも明かりがともり、足元灯が夜道を照らすので、安心してお参りができます。

ライトアップされた煌（きら）びやかな楼門をくぐったら、夜間照明に浮かび上がる安土桃山様式の荘厳な拝殿へ向かいます。静寂に包まれた、夜ならではの心静かな参拝を楽しめます。

12／3基の鳥居を中心に季節感やイベントのイメージに合ったライトアップを夜9時まで開催
13・14／参道の店舗を中心に始めた足元灯。袋にLEDを入れただけの簡易なものだが、柔らかな明かりに癒される

地域が連携して情緒豊かな太宰府の夜を創出

暮れなずむころ、太宰府天満宮の参道にも明かりがともり、3基の鳥居が幻想的に浮かび上がります。これも、九博の夜間開館を機に始まったライトアップです。

ライトアップの光の色は季節によって変化。桜色の春から、夏は新緑の緑色へ。秋には紅葉を、冬は青の世界をイメージした色に変わる予定です。美しい光は参道に新たな命を吹き込むかのようです。

一方、参道の店舗も動き始めました。夜の観光客の安全への配慮とおもてなしの気持ちを込めて、紙袋にLEDライトを入れた足元灯を、通路に置くようになりました。また、太宰府名物「梅ヶ枝餅」のお店など、一部の店舗も営業時間を延長。夜ならではのゆったりとした時間を楽しむことができます。

さらに、これからの季節、七夕祭（7月7日）、夏祭り（7月24、25日）、千灯明（せんとうみょう）（9月25日）と、太宰府天満宮の夜のお祭りも見逃せません。特に、千灯明当日に合わせて市民の手による「古都の光」という、風情あふれるライトアップイベントも催されます。

これらのライトアップや、九博の夜間開館が夜のにぎわいを生み出し、それが夜の飲食や宿泊、翌朝の天満宮参拝などに結び付くことで、従来の通過型の太宰府観光とは違う流れができればと、地元も期待を寄せています。

九博の夜間開館を受けて、市、太宰府天満宮、観光協会、商工会、そして各店舗が一体となって取り組む太宰府ナイトエリアの創出。その連携は、太宰府の新たな魅力を掘り起こそうとしています。

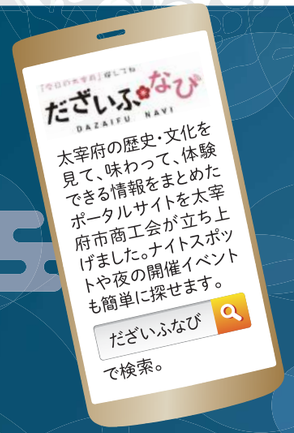
特集 古都の香りただよう太宰府の夜

［問い合わせ先］■太宰府天満宮 ☎092-922-8225 ■太宰府市観光経済部 ☎092-921-2121 ■太宰府観光協会 ☎092-925-1899

古都の夜を彩るナイト・イベント

七夕祭

太宰府天満宮の境内で午後6時半から、幼稚園児による歌、楽器演奏、熊本県山鹿市の「山鹿灯籠踊り」などが奉納されます。中でも、山鹿灯籠踊り保存会と地域の人々の参加による、あでやかな総踊りは必見です。この日は参道の鳥居もライトアップされ、七夕の夜を華やかに演出します。

古都の光

水城跡、大宰府政庁跡、戒壇院、観世音寺など太宰府にある史跡を多くの人に知ってもらおうと始まったイベント。地域の人々も参加し、さまざまな趣向を凝らした灯明で、太宰府の町に「光の道」を作り出します。美しく幻想的な光が古都・太宰府の夜を照らします。